

模写による県内文化財研究と保存継承Ⅰ

期間：2003（平成 18）年度⇒2004（平成 16）年度

報告：北田克己



研究発表展示の会場風景から（芸術資料館 平成 18 年 10 月 9 日～14 日）

平成 15-16 年度指定研究

「模写による県内文化財研究と保存継承Ⅰ」

研究代表者：倉島重友

西田俊英, 北田克己, 藁谷 実, 佐々木 正

研究の目的

本研究は地域の文化財を、日本画技法を駆使した精密な現状模写、復元模写と研究を通じて、保存継承しようとするものである。

模写による教育研究

日本画専攻では創作研究と並んで古典研究を重視しており、これを実技面で実践するのが模写である。本研究の目指す模写は単に原本の模造を目的とするばかりでなく、技法、素材を探求し、可能な限り制作当時の同技法・同素材による表現を再現するもの

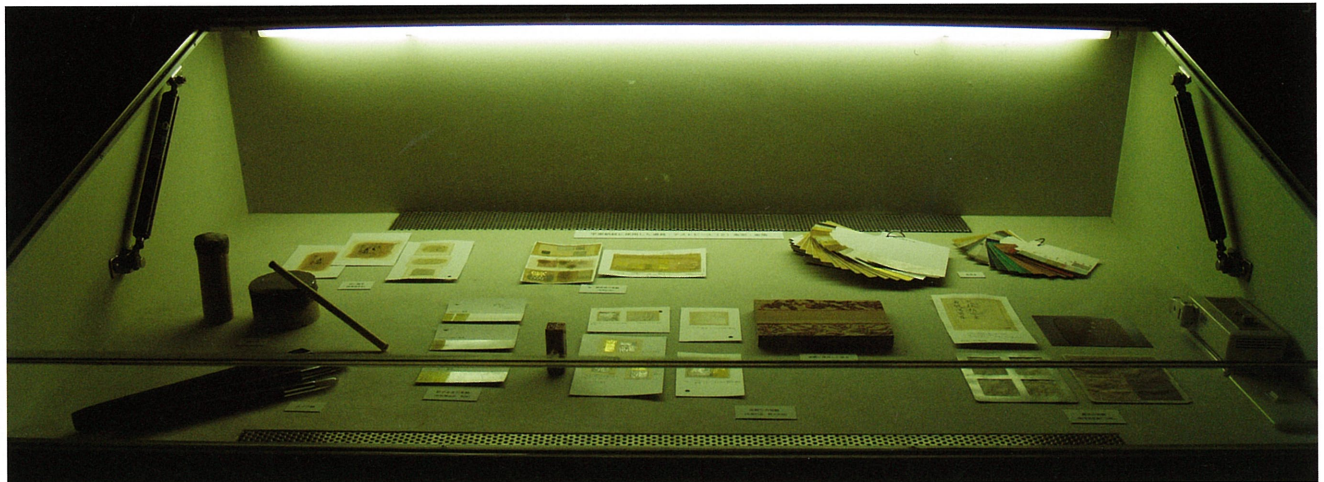
である。同時に広範な美術の知識と創作者としての経験を駆使した創造的な作業が必要とされ、これにより古典作品に対する優れて深い考察と検証を実現する研究手法となり得るのである。さらに完成した模写を教材として活用することにより、本学古典美術教育と研究のための資産充実を図る。

人材育成プログラムとして

模写制作には本学出身の若手研究者が当たることで、古典美術に対する研究の増進を図るばかりでなく、創作へのさまざまな示唆を得ることが期待される。このことから本研究を人材育成プログラムとして推進してきた。

地域貢献事業として

現代の模写は文化財保存の一手法であり、画像、技法復元の有



効な研究手法としても体系化されつつある。完成した模写は市民に公開し、通常、閲覧が困難な優れた地域文化財に触れるための機会拡大を図る。このような研究成果の社会還元を通じて地域文化芸術振興に寄与してゆきたい。

研究計画

本研究では、上の目的を達成するため、地域を代表する文化財である厳島神社の「平家納経」全33巻のうち、6巻の模写を入手可能な資料によって行った。原本との照覧には制限があるため、研究目的の試験的な模写にとどまるが、模写を通してさまざまな技法、材料、表現上の研究と美術史的考察を行った。

また、高知県立紙産業技術センター、岡墨光堂（京都、昭和30年代と40年代に行われた「平家納経」修理に携わった文化財修理業者）、国立文化財研究所、半田九清堂（東京・文化財修理業者）などさまざまな研究機関、技術者との連携や協力を得て

研究を行った。

研究成果

上記のような研究手法により、以下の平家納経6巻の部分模写が完成した。技法、表現上の再現研究については、展示発表等によって成果を公開する。

1. 仏説観普賢菩薩行法経〔結経〕
2. 授学無学人記品第九
3. 堤婆達多品第十二
4. 嘱累品第二十二
5. 観世音菩薩普門品第二十五
6. 妙莊嚴王本事品第二十七